

生物多様性 ～いきものの「つながり」、地域の「個性」～

「いのち」と「暮らし」を支える・・・



人が自然環境へ及ぼす影響は、この数十年間で急激に大きくなったと言われ、これから先も人が安定した豊かな社会を築いてゆくためには、「生物多様性の保全」が「カギ」となります。

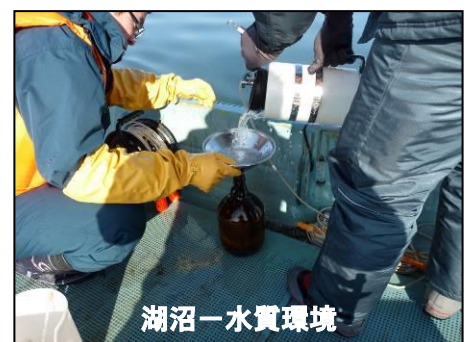
■生物多様性が直面する危機

第1の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■開発・変更の速度はさらに低下するが、過去に行われた開発・変更の影響は継続 ■既存の住宅・産業施設・社会資本の維持・更新のための原料採取等の開発・変更など 	(例) ◆河川の連続性の低下 ◆河床低下の影響 ◆沿岸生態系における開発・変更などの複合的な影響
第2の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■里地里山の管理・利用はさらに低下して影響が深刻化 ■中大型哺乳類の個体数増加・分布拡大が加速 	(例) ◆人工林の管理不足による斜面崩壊等の影響 ◆シカによる森林植生の破壊の影響
第3の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■非意図的なものを含む外来種の侵入機会・既に定着した種の分布拡大の傾向はある程度継続 	(例) ◆湖沼や島嶼の侵略的外来種の影響
地球温暖化の危機	<ul style="list-style-type: none"> ■脆弱な生態系では、不可逆的な影響が生じる恐れ 	(例) ◆サンゴ礁・高山植生への影響

※引用文献 生物多様性総合評価報告書／環境省自然環境局：生物多様性総合評価委員会（H22.5）

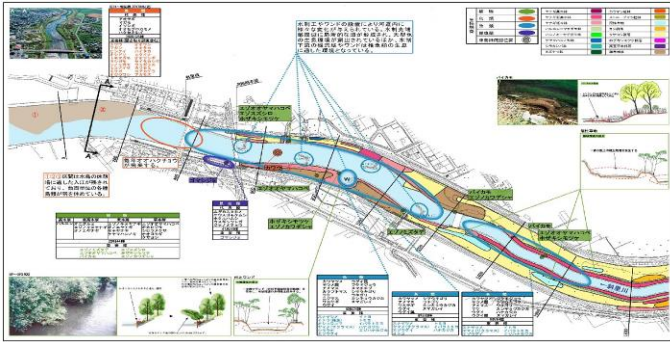
■診察する

生態系の成立状況をあらゆる角度から調べます。

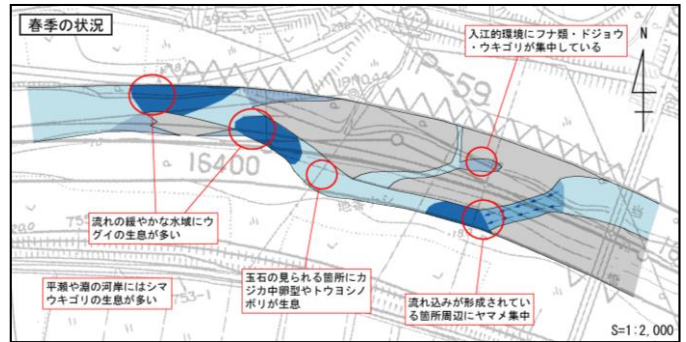


■診断する

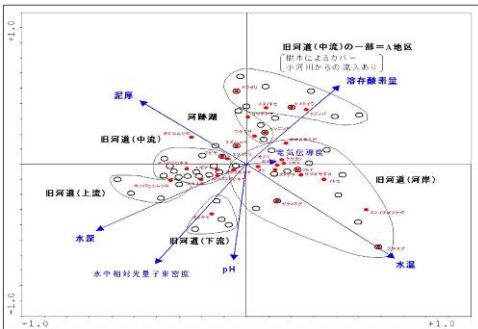
調査結果を解析し、「守るべき環境（コントロールポイント）」を抽出します。



環境情報図(総合評価)

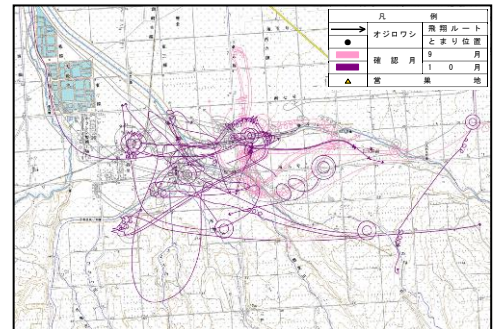


魚類生息環境評価



分散分析(植物生育環境解析)

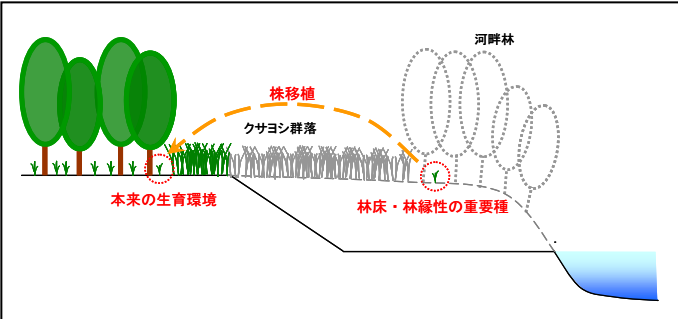
守るべき環境は？



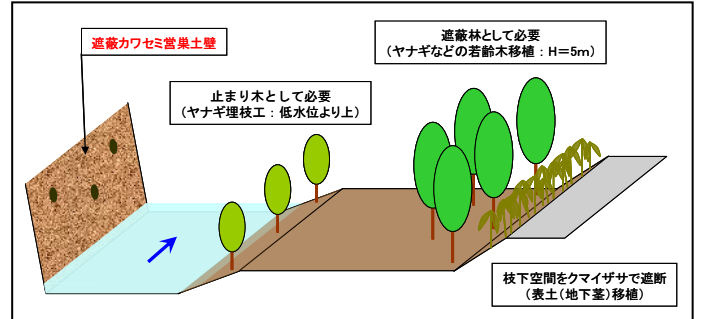
猛禽類行動圏解析

■処方する

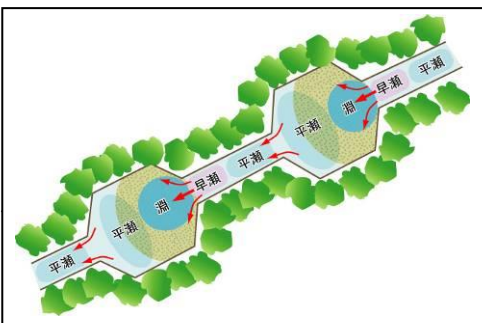
保全対策を検討し、措置後の経過を観察します。



植物種の移植による保全

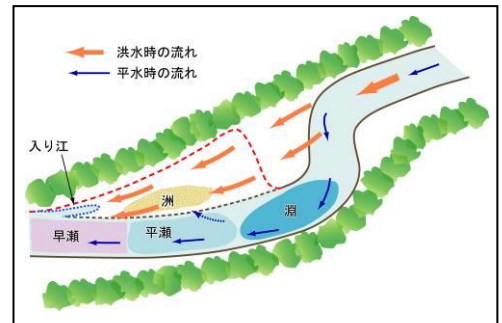


カワセミ営業環境の保全(遮蔽林)



河川環境(水域内)の多様化対策

保全対策
効果検証
(順応的管理)



効果検証



建設コンサルタント
株式会社 開発調査研究所
〒062-0054 札幌市豊平区月寒4条10丁目7番1号
TEL 011-852-3485 FAX 011-855-1298
URL <http://www.kaichoken.co.jp/>

河川・環境部

部長	岡本 幸也 (RCCM)	主任技師	平井 充大 (RCCM)
次長	本田 康隆 (技術士)	技師	井田 卓朗
次長	貴多本大器 (技術士、環境再生医)	技師	加藤 琢磨
主幹	小澤 良之 (RCCM)	技師	山下竜之介
		技師	北村 淳子